

Iwamoto Seminar In shanghai

2012/09/10-13

はじめに

ご挨拶とお礼をさせていただきます。

夏休みの4日間を使い、岩本ゼミ3期生10名で合宿という名の中国に関する社会学習をしてきました。この上海合宿で急成長する中国の現状、現地の小売市場、実際に日系企業やグローバルに活躍されている方々から学び、吸収したことについて報告をさせていただきます。

そして、この度の合宿は関西大学岩本先生をはじめ、

関西大学卒業生である上海関大会の方々の

お力添えによって企画、進行することができました。

より充実し、有意義な合宿となりましたことを大変感謝しております。

簡単ではありますが、上海合宿参加者をはじめ、

ゼミ生一同からのご挨拶、お礼とさせていただきます。



目次

■上海合宿 1 日目

関西国際空港 - 上海浦東国際空港

上海高級料理店での四川料理 - 夜景観賞

■上海合宿 2 日目

スーパーマーケット - 市街地探索 - 現地市民の市場

昼食：飲茶

新天地 - 観光地で買い物 - 百貨店：久光

■上海合宿 3 日目

神栄(上海)貿易有限公司、事務所訪問：上海関大会*棟羽様

上海宝産三和門業有限公司、工場訪問：上海関大会*横田様

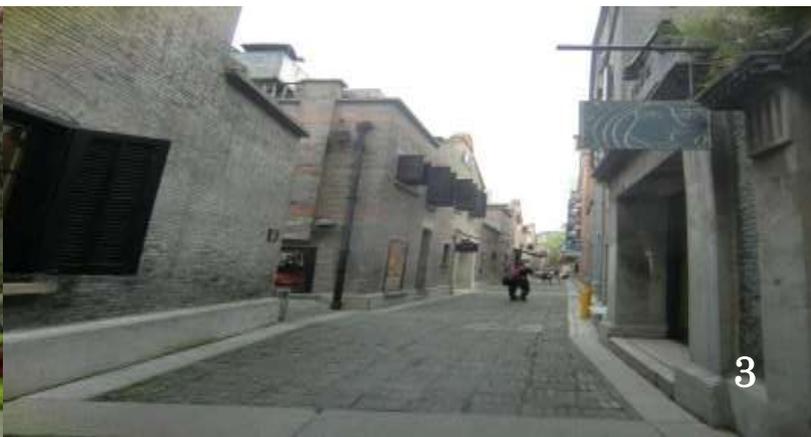
昼食：横田様とのお食事

雅瑪多(中国)運輸有限公司、松江ベース訪問：上海関大会*井黒様

上海関大会の方とのお食事

■上海合宿 4 日目

上海浦東国際空港 - 関西国際空港



上海合宿 1 日目

《日本から中国へ》

関西国際空港— 上海浦東国際空港

空港は関西国際空港を利用しました。

換金を終えた後、搭乗手続きを無事終わらせて中国上海へ。

上海浦東空港に到着すると、実に多国籍の人々で溢れかえり、まさに中国が世界の市場であることを物語っていました。空港からはタクシーに乗って市内にあるホテルに移動。移動中の空気、風景、言葉、においから中国にいることを早速実感することに。「領収書をください。」という中国語を実際に使って中国人運転手とコミュニケーションを取っているゼミ生もいました。



上海高級料理店での四川料理

現地に到着していた岩本先生と合流後、地下鉄を利用して先生が予約してくれていた料理店へ。地下鉄の切符は IC チップの入ったカードをリサイクルするもので、ここでも国の違いを感じましたが、地下鉄の構造は日本の地下鉄とさほど違いがなくて便利でした。急成長に合わせ、出来立てなのかとてもきれいな地下鉄でした。



『渝信川菜』という四川料理店で夕食を取りました。そこで、岩本ゼミ 2 期生の現在中国に語学留学されている宮崎さんと合流し一緒に食事をし、岩本ゼミ恒例の料理の値段を当てる【ゴチになります！】をやりました。円卓には大量の料理が並べられ、その中にはとてつもなく辛い料理や、カエル、ドジョウ、アヒルの舌など日本では食べる機会のない料理もあり、価格のことを考えるよりも目の前の料理について頭の中がいっぱいでした。中国ならではの食文化に圧倒されて時間もあっという間に経ち、いよいよ、結果発表！結果はなんと・・・。最下位が・・・中国で半年語学勉強していたはずの宮崎さんでした！それにしても、見知らぬ土地の料理の値段を当てることは難しいですね。食事中は岩本先生から中国と日本との関係についてのお話を伺うなどをして時間を過ごしました。

* 上海夜景 *

食事後は 2 期生の宮崎さんの案内の元、中国で最も高い建物、通称「栓抜きビル」に行ってきました。チケットは一人 150 元と高価ではありましたが、その夜景は最高でした！

このビルは日本の森ビルが出資している上海環球金融中心有限公司が事業主体です。日本の技術への対抗心もあってか、隣には中国共産党によって将来この栓抜きビルを超える高さのビルが建設中でした。周囲もビルが密集し、道路も整備されていて、大変近代的な街並みでした。その後、川の周辺のバンドと呼ばれる景色をしばらく鑑賞。栓抜きビルからの景色に並ぶほどの絶景でした。



上海合宿 2 日目

《中国を視る》

中国のスーパーマーケット



ホテルから地下鉄で 40 分の場所の、地元の市民が行くスーパーマーケットに行きました。荷物のチェックを受けた後、各自でスーパーの中を回っていると、ここでも日本と中国の違いを多数発見することになりました。大量の香辛料、冷凍のカエル、肉の塊(茹でられ頭つきのままの鳥)があり、それを現地の人々が素手で触っている光景に驚きました。生鮮コーナーは製品だけでなく、人々の行動に日本との違いを感じました。お菓子のコーナーに行くと、日系企業が出しているものが多々あり、そのほとんどが日本にない味のものばかりで、お土産用にと購入しているゼミ生もいました。レジ袋は有料で、購入までの流れは日本とほぼ同じものでしたが、衛生面、販促方法に関して中国市場の小売店の問題点を目の当たりにしたようでした。

上海の日常の光景から



SM を出てさっそく目にした光景は高層マンションの数々、その下には多数の子供連れ家族が。急速に成長した中国の現状について街を歩いて学びました。不動産事情として、地価が急上昇しており、それに伴った都市改革がなされていますが、駐車場の不足が問題となっています。また、一本裏の道に入るとそこにはさっきとは全く違った風景が。洗濯物を手で洗う人、電気代節約のためか、軒先で作業をする人、場所によっては異臭が漂い、建物は石造で、所々がれきの山を目にしました。こうも道一本で違うものなのかと驚かされました。「上海人の男性は持ち家、車がないと結婚できない」という言葉からも分かるように中国の格差、実力主義や、子育てをお手伝いさんがしている光景からも中国の特性、成長を覗うことになりました。

昔ながらの現地市場



バイクタクシーに乗って移動した後、私たちはまさに現地の人が行きかう市場に向かいました。その風景は日本の昭和初期の雰囲気漂い、日本商店街と近いものを感じました。街を歩いていると生きた鳥や、魚、亀、様々な種類の卵、肉、野菜などが売られ、すっぽんが目の前で絞られていました。肉の塊には赤いライトが照らされ、肉の色を良く見せるなどの工夫がされるなど、見ていて面白いと思う点が多々ありました。有名なお酒の量り売りもあり、普段の旅行会社のツアーでは見ることでできないような、生の中国、人々の姿を見ることができました。

飲茶で昼食



街を探索後、飲茶の昼食を取りました。この料理店は1期生の上海合宿から利用はしているものの、たった3年の間に値段はかなり変わってしまったようで、上海の物価自体が急上昇していることが顕著に表れていました。飲茶はというと四川料理とは少し違い、辛いものが少なくてせいろを使った蒸し料理が中心でした。この料理店の名物、鳥の頭(飾り)とももを揚げた料理は私たちからすると少し気が引けるものの、現地の人々のテーブルを見ると当たり前のように並べられていました。食事中に出たドリアンのデザートが全く臭くなく、そのおいしさに驚いていると、先生から日本のマスコミは日本人の食いつきが良い情報しか出さず、そのために偏見が生まれているといったお話を伺い、我々の知識不足、中国について考え直す時間になりました。

新天地—観光



昼食の後、先生と別れ、家を購入する際にキッチントイレなどの家庭設備機器を揃えるためのエリアともいえる、ショールーム街に行きました。TOTOのショールームがとても印象的でした。その後、宮崎さんと合流し、観光地として整備された新天地という街へ行きました。いろいろな国籍の人々がおしゃれなカフェなどでくつろぎ、お土産を売る露店があり、噴水などがありました。観光地として作られた景観は本当におしゃれでしたが、昔ながらの景観というよりは作ったものといった印象が強く、そのエリアだけ物価が高いように感じました。その後地下鉄で打浦橋駅に行き、先生と合流。近くにある素敵な雰囲気の漂った観光地に行きました。ここでもいろいろな国籍の人々が観光をしており、おしゃれな雰囲気が漂っていました。革製品やチャイナ服、お茶などが新天地同様、割高に販売されていました。見るものが多く楽しかった反面、午前中に観光地でないようなローカルな地域に行った私達からすると、どうしてもこういった地域は作っているといった印象が強く、少し物足りなかったように思います。

久光百貨店



久光百貨店は一般的に中国では高級志向の高収入者向けの百貨店で、中には大量の日本製品(輸入品)が陳列されていました。日本の調味料、納豆といった日本ならではの食材だけでなく、魚のラベルには「生き！」と日本語表記がされていました。同商品でもスーパーより価格が若干高く、店内には中国人客が大勢いたことから、ターゲットは日本人だけでなく高級志向の中国人であると思いました。それにしても、フードコートに「山崎パン」や「Coco壺番屋」、おでん屋などがあり中国人がこういった日本食を好んで食べているのかどうか、疑問にも感じました。

上海合宿3日目

《企業訪問：グローバルに働くということ》

神栄(上海)貿易有限公司、事務所訪問

神戸に本社がある神栄は創業125年、当初はシルク（繊維分野専門）を扱う商社であったが近年、繊維だけでなく食品、物資、電子に関する貿易を行う総合商社としてアジアを中心に活動しています。その神栄で中国上海

を中心にしてグローバルに活躍されている棟羽さんを訪ねました。神栄の企業説明の後ディスカッションを行い、中国ならではの運営面での問題点や、ユニークなお話、中国人の気質などを伺うことができました。また、従業員のほとんどが中国人である事務所の運営を、棟羽さんを含めた日本人2名で行っていることを聞いて、驚いた反面グローバルに働く人材に求められるものを所々垣間見ることができたように思います。商社で働くことについて少し身近に感じ、今の私たちに足りないもの、グローバルに働くために必要なものについて考えさせられる時間を過ごすことになりました。まずは声を大きく、行動的に！なることが必要不可欠！



上海宝産三和門業有限公司、工場訪問：食事



次に、上海にある三和シャッターの工場へ向かいました。移動途中、渋滞に巻き込まれてディスカッションの時間が短くなってしまい、何かと駆け足になってしまったことが残念でしたが、大変有意義な時間を過ごすことができました。ここでは、上海宝産三和門業有限公司に勤務しておられる横田さんにお世話になりました。三和シャッターは世界で5本の指に入るほど、ドアに関する事業は大変強い生産能力を誇っています。全体的に物価が安い中国において日本のブランドを活かして、高所得者層、企業に向けた製造、販売をしています。企業説明を受けた後、活発にディスカッションを行いました。中国に進出するだけでも製造業に関しては難しいようで、現地の企業と合併しなければ起業をすることができない、同じ地域に同じ種類の製品を売る企業は起業できないなど、様々な制約のもと日系企業が中国で活動していることを知りました。他にも経費回収の難しさについてのお話など、中国に関連した笑い話もあり、幅広くお話をさせていただくことができました。食事中は、貴重なお時間を頂いているにも関わらず、ろくに会話もはかどらなかったために、先生から喝が飛びました。このような機会を活かして学外の方から吸収することが私たちの成長に繋がるにも関わらず、チャレンジしないことの未熟さをゼミ生一同痛感する時間となりました。

雅瑪多（中国）運輸有限公司、松江ベース訪問

次に、上海にあるクロネコヤマトの松江ベースにお邪魔して、物流の世界を学びました。宅急便として知られているクロネコヤマトですが、中国ではそのサービスは画期的であるようです。中国現地の以前からある宅配便業では、荷物の荒い取り扱いや配達サービスが低レベルであることが問題となっていました、それが普通とされていました。そのため、宅急便の高い管理レベルを海外の国に根付かせることがいかに大変かを知ることになりました。文化を変える事業、つまりはグローバル事業の一面を知れたように感じました。アジアに進出しているクロネコヤマトですが、その事業の開拓に度々関わっているのが今回お世話になった井黒さんです。その井黒さんと大和さんによる企業説明にはクイズ形式が使われ、お二人のユーモアのあるトークには人を惹きつける力を感じ、こういった気さくさを感じさせるコミュニケーション能力はやはり世界で様々な人と関わっていくには必要なのだと感じました。松江ベースの見学中には自慢の冷蔵設備や、仕分け施設、運転研修、配達トラックの中を見せてもらい、翌日北京に行くトラックの中にも入れてもらいました。どれも普段見ることのできない場面で、大変貴重な経験をしました。



上海関大会の方とのお食事



上海に在住し、働いている関西大学卒業生 OB/OG の方で構成された上海関大会の方 6 名と食事をさせていただきました。急な食事の企画であったにも関わらず、集まって頂けたことに大変感謝しており、関大卒業生、よき先輩方の有難さを感じました。様々な職種の方ばかりで、ゼミ生それぞれにとって意義のあるお話をたくさん伺うことができました。事業の話や、日系企業の中国での苦悩、中国の制度、現状、今までの経験話、旅行話、学生に求められているものなど、興味のそそられる新鮮で刺激のお話ばかりで、聞いていて大変楽しかったですし、考えさせられることも多かったです。そんな中、食事中に全員の関心を奪ったものが左上にある「面の早替え！」。食事の最中に行われるショーで、このショーを接待目的で使う日系、欧米系の客が多いようです。顔に手を触れて一瞬でお面が変わると周りからは一斉に拍手喝采！ゼミ生の中には演技者と握手をした者もあり、その時間を全員で楽しみました。その後、食事と会話に夢中になってしまったせいか、気づけば閉店時間に。まだまだ話し足りなかったものの、集合写真を撮って解散となりました。

さいごに

今回の合宿では「グローバル人材とは何か」、
「日本と関わりの深い中国の現状と市場を学ぶ」といった本来の目的以上のこと、
つまり、日中の関係から見えるものを学ぶことができたと思います。
私たちが上海にいる間に、日本は尖閣諸島の国有化を発表し、日中の関係は悪化しました。
日本でも、中国でもそのことについて報道されていましたが、
その報道に対して私たちは正しい情報を汲み取る必要があります。
なぜなら、両国の様子を実際に目で見たものと、報道されている内容には、
大変偏りがあるように思ったからです。
歴史的、経済的、政治的、文化的に関わりの深い中国だからこそ、
日中に根付く問題を知らないことは、とても危険なことだと思います。
自分の意思を簡単にメディアに左右され、
偏った考え方しかできない人は多いと思います。
そうならないためにも実際に目で見て確かめることは、
とても重要だと考えさせられました。
「私たち学生は社会に出る前に、いかにして、学ぶこと考えることに時間を費やせるのか。」
また、「社会に溢れている物事に対し、冷静な対応ができるのか。」
といったことが大切であると上海合宿で実感しました。
この合宿で、私たちがまた少し成長できたことを確信しています。





Iwamoto seminar In Shanghai

作成：関西大学商学部、岩本ゼミ 3 期生

上海合宿担当：渡邊歩美

制作日時 10/01

岩本ゼミ HP：<http://iwamotozemi.uijin.com/>

ゼミ公式 Facebook：<http://www.facebook.com/iwamoto.seminar>

ゼミ公式 twitter：https://twitter.com/iwamoto_seminar